

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

特別支援員設置事業

事業の経過・背景・課題

本町には6小学校、2中学校があり、令和6年4月には1,180人が在籍している。その内、支援学級に49名、普通学級に在籍しているものの通級指導を受けている児童生徒が193名と数多く在籍している。また、小中学校で発生している問題事象のうち、7～8割は特性や支援学級在籍で支援の必要な児童生徒の事象となっている。

取組内容

交付実績額： 4,890 千円

学校毎に児童生徒の状態に応じた支援員の配置を行うため、町特別支援委員会を含めて検討し、必要最低限の特別支援員を配置している。

※各小中学校に38名の支援員を配置



事業の成果・今後の展望等

特別支援員の配置により、個々の認知特性や教育的ニーズを的確に把握し、「個別最適化した学び方」や「指導の個別化」を進めることが出来た。引き続き、学級満足度調査（※）を活用した制度の高いアセスメントを基にした支援を行うことで、誰もが安心して学べる学級経営と、すべての児童生徒が「できる実感」がもてるユニバーサルデザイン化された授業づくりに努める。

（※）学級満足度調査（Q－U）

早稲田大学の教授が開発された心理テスト。各児童生徒の意欲や満足度、学級集団の状態を検査することができるもので、教師の考えている現状と実態のズレを把握することや、不登校・いじめ被害も早期発見することができる。

この結果を基に、教師はこれまでの指導を見直し、問題解決に向けて学級経営や授業改善を行っている。与謝野町では、全児童生徒を対象に年2回実施。また、その結果を基に、学級満足度調査活用推進委員会を年に4回開催。その中で研修（講義・演習）を行い、本調査をしっかりと活用することができるように努めている。

問い合わせ先

与謝野町教育委員会学校教育課（0772-43-9025）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

文化芸術による児童生徒育成事業

事業の経過・背景・課題

今後の教育は、新学習指導要領にも掲げられているとおり「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」をバランスよく育む必要がある。

取組内容

交付実績額： － 千円 ※セット新規

(※) 本交付金を活用することで生じる余剰財源の1/2程度の額により
教育環境の充実に資する事業を新たに実施・拡充

- ・劇作家の平田オリザ氏（兵庫県立芸術文化観光専門職大学学長）によるワークショップ型の「演劇教育」を計画的・継続的に実施

〔演劇教育とは〕

- ・演劇的表現手法を用いたコミュニケーション教育ワークショップ等を実施
- ・ある題材の台本をもとに、グループの話し合いの中でアイデアを出し合い、配役や登場人物像、せりふといった細かいシチュエーションを設定し、物語を展開させていく授業
- ・授業を通して、子どもたちの豊かな創造力・想像力や思考力、コミュニケーション能力を養う

〔実施スケジュール〕

- ・加悦小学校 5月28日（2・3校時：5年生）、6月 3日（1～3校時：6年生）
- ・岩滝小学校 5月27日（2・3校時：6年生）、9月30日（1～3校時：6年生）
- ・石川小学校 6月 7日（5・6校時：6年生）、10月 7日（1～3校時：6年生）
- ・加悦中学校 5月22日（1～3校時：1年生）、10月11日（5・6校時：1年生）
2月 5日（1～3校時：1年生）



事業の成果・今後の展望等

演劇を通して、異なる他者の視点に立って、様々な価値観や文化的背景を持つ人の心情を理解する力を身につけるとともに、自己表現力、創造性、やり遂げる力、協調性などといった非認知スキルの向上を図ることで、主体的・対話的で深い学びを実現した。

今後はより計画的な波及と効果的な実践を行うため、中学校では毎学期実施、小学校では1・2学期に実施と同じ児童生徒が複数回経験できるように取組を推進する。

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

教育相談事業

事業の経過・背景・課題

小中学校においては、保健室・別室登校をする児童生徒、また登校することが困難で教育支援センターに通所する児童生徒が増加傾向にあり、児童生徒一人一人に応じたきめ細かい支援を行う必要がある。そういった支援を行う上で1番大事な「みたて（支援方法）」については、専門家による判断が必要となる。

取組内容

交付実績額： － 千円 ※セット新規

（※）本交付金を活用することで生じる余剰財源の1/2程度の額により
教育環境の充実に資する事業を新たに実施・拡充

・専門家（ドクター）が各小中学校を巡回し、児童生徒一人一人の特性や様々な背景を考慮し、個々に
応じた適切な支援方法の確認と指導を行う。

〔実施スケジュール〕

- ・加悦小学校 5/30、7/11
- ・三河内小学校 5/31、10/11
- ・市場小学校 2/13
- ・山田小学校 12/12
- ・加悦中学校 6/14
- ・江陽中学校 8/29、1/23



事業の成果・今後の展望等

専門家による「みたて」に基づき、児童生徒一人一人のニーズや状況に応じた適切な支援を行うことができた。
引き続き個に応じた支援を行っていくとともに、専門家による的確な指導を受けながら関係機関と連携し、全ての児童
生徒の「学びの保障」に取り組む。

問い合わせ先

与謝野町教育委員会学校教育課（0772-43-9025）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

英語検定チャレンジ事業

事業の経過・背景・課題

英語検定にチャレンジする生徒を増加させることで、加速度的に進むグローバル化の波に対応する児童生徒を育成する。

取組内容

交付実績額： － 千円 ※セット新規

(※) 本交付金を活用することで生じる余剰財源の1/2程度の額により
教育環境の充実に資する事業を新たに実施・拡充

中学1年生と3年生を対象とし、英語検定にチャレンジする機会を創出



事業の成果・今後の展望等

- ・英語検定は、全国共通の指標と問題により実施されるので、実用性も高く、生徒の英語力向上を図るために適切な検定である。この検定受験をきっかけに、生徒の学習意欲の増加に繋げることができた。
- ・引き続き、より多くの生徒が受験できる環境を整えることで、英語力を高め世界で活躍できる人材を育む必要がある。

問い合わせ先

与謝野町教育委員会学校教育課 (0772-43-9025)

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

採点支援システム導入事業

事業の経過・背景・課題

社会の急激な変化が進む中、学校においては学習指導のみならず、学校が抱える課題は、より複雑化・困難化し、長時間労働が常態化している。このため、業務を見直すことで教員が生徒と向き合う時間を確保し、教育活動を充実させる必要がある。

取組内容

交付実績額： － 千円 ※セット新規

(※) 本交付金を活用することで生じる余剰財源の1/2程度の額により
教育環境の充実に資する事業を新たに実施・拡充

テストの解答欄を設定し、模範解答を登録するだけで、ワンクリックで採点・分析することのできる採点システムを中学校2校に導入した。



事業の成果・今後の展望等

- ・システムの導入により、「どこが理解できていて、どこが間違っているか」といった全体を通した把握ができることから、業務時間の削減だけでなく、生徒一人一人に応じた個別最適学習を行うことで学力向上に繋げることができた。
- ・今後においても、業務を見直しすることで働き方改革をすすめ、生徒と向き合う時間を確保し、教育活動を充実させる必要がある。

問い合わせ先

与謝野町教育委員会学校教育課（0772-43-9025）